

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400251		
法人名	社会福祉法人実寿穂会		
事業所名	グループホームポート賀茂		
所在地	福岡市早良区賀茂4丁目41-30		
自己評価作成日	平成29年12月1日	評価結果確定日	平成30年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者様をご自分の存在についてどのように感じ、どのように生きようとしているかを理解することに努めます。さらにご本人の持つ力を発揮していただけるように支援を行い、お一人お一人の「思い」や家族の「願い」を実現するケアを実践します。
ご家族や地域の皆様にも支えていただきながら、あたたかで安心できる暮らしを創ることを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年12月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ポート野芥」は開設から1年半と、まだ新築の香りが残る平屋建ての2ユニットグループホームである。母体の社会福祉法人は長崎と福岡で介護施設、事業所を多数展開しており、市内の近隣も系列の施設が運営されている。勉強会にも力をいれており、特にユニットケアの考え方を重視しており、入居者それぞれの思いを反映し、好きな時間に起き、食事をし、自分の時間を大事にしている。入居者同士で朝起こしあったり、外出も一緒にしたり、また取って何もしない日を作ることで本人からの自主性を引き出している。入居時に妄想癖の強かった方も、本人のやりたいことを実現したことで軽減にもつながり、それは職員のやる気にもなった。入居者の精神的安定を目指し、個別性を大事にしており、安心できる環境づくりを日々目指している。地域との関係も良好であり、今後の発展が益々期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念について話し合いを設けそれを事務所の目の触れやすい場所に掲示しユニット会議などで共有し実践している	法人理念を元にして、事業所の独自理念を開設時の職員たちで話し合って作成した。事務室内に掲示しており、毎月のユニット会議時に唱和している。わかりやすくシンプルな理念で、職員も理念にある入居者の「心の声」を意識して、会議などで意見をあげており、徐々に浸透してきている。 職員の入れ替わりもあり、改めていまの職員で理念を振り返ることで、ユニット独自で実践共有に取り組みられることが期待される。また行動目標や実践理念など具体的なものにつなげていってはどうだろうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事、公民館で行われる教室に定期的に参加し交流を行っている。地域の方の提案で、折り紙などが出来る方など紹介していただき、入居者の楽しみを増やしている	事業所の敬老会には地域のサークルの方に依頼して演奏と歌を披露してもらった。以前は地域行事もよく行っていたが、最近は職員体制などでなかなか行けていない。地域のお祭りで子どもみこしに立ち寄ってもらったり、小学校のお祭りなどには入居者と一緒に参加している。キャラバンメイトの講師になれる職員もおり、今後の実施を検討している。地域情報はお便りや回覧板などで頂いている。 地域からの提案で、さらに地域の方を招くような行事や催し、サークル活動などが実践されることも期待される。日常的な地域交流を増やしていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館での民生委員の集いに参加し認知症の方の理解や支援の方法を話す機会があった。地域貢献の為に、家族向けの認知症講座などの提案を行っている	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を開き、入居者の状況やサービス提供などの事業報告を行っている家族、地域の方の情報交換できるようにしている	家族には全員に案内しており、2~3組が参加している。地域包括、民生委員、自治会長の参加もあり、ご意見を頂くことも多い。行事報告、ヒヤリハット報告などをしており、地域情報や助言なども意欲的に出されている。防災訓練と同日に開催したこともあり訓練にも参加してもらっている。議事録は面会時に手渡しなどで報告している。 今後は家族会の開催も検討しており、運営推進会議とも連動することで、より深い話が運営改善につながっていくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加は無いため、運営推進会議議事録や広報誌を送付し現状把握してもらっている	毎回運営推進会議の案内はしており、今のところ参加はなかったが、今後は年に1回くらいは~との回答も頂いた。最近あった事案に関して、市の施設指導課とは密に連絡をとり、支援も頂きながら対応につなげた。何かあった時は直ぐに連絡するようになり、スムーズな連絡体制が出来ている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の「本人の思い」を根拠に、入居者が出たいと言われた時は解除し職員が付き添い外出している 家族の訪問の時は解除している	電子施錠で、日中は外からは入れないが、中からは自由に出入される。離設事故もあるが、近隣の方からの連絡で大事には至っていない。その後は職員間の連携強化や見守りによって対応を改善している。今まで身体拘束の事例はなく、原則しない方針で内部研修の実施や、法人内の委員会活動で情報共有もしている。直近の事案を元に、職員間で事例を共有し、レポート報告を市にも行っている。

H29自己・外部評価表(ポート賀茂)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	計画作成担当者に、事故ならびにリスクマネジメント研修を行い。計画作成担当者による、OJTにより職員に伝えて言っている。職員は「虐待の防止について」の外部研修に参加、ユニット会議で伝達講習を行い虐待が見過ごせれないよう防止に努めている		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の内部研修に参加 今のところ制度の必要性のある方は居ないが今後、機会がある時は活用できるように支援していく	現状制度利用者はおらず、今までにも利用された方はいない。外部研修によって成年後見制度などに関して学んでおり、内部での伝達も行っている。必要時には外部機関と協力して対応する。	一般的な制度に関して、継続的な学習を深めることで、事業所全体での制度理解が進められていく事にも期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明し了承を得たうえで契約している また制度改正がある場合などは再度説明し同意を得るようにする		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している 日頃から家族の方には入居者の状況報告を密にしご意見や要望を伺うよう努めている 顧客満足度のアンケートを実施している	家族からの意見は運営推進会議時や、毎年の法人からの満足度調査などで頂き、集計結果の報告もしている。面会も多く遠方の方も含め月1回以上は来られており、その際に意見も頂く。毎月ユニットごとに写真付きのお便りを発行し情報を伝え、個別の報告は口頭でしている。玄関に職員紹介のボードも掲示している。	今後家族会の開催も検討しており、より円滑に相互のコミュニケーションが取られ、情報共有がなされることが期待される。おたよりに新人紹介も載せることで顔の見える関係になる。家族とのコミュニケーションも積極的に働きかけることで話しやすい関係をつくることも望まれる。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	同法人の全体会議に職員が出席し意見や提案を述べる機会を与えている	毎月同日にユニットごとの会議が開かれており、担当職員からの報告により、入居者の「夢実現」に関してや、24時間シートを元にした思いや意向などの情報共有をしている。法人会議の様子は動画配信され全職員で回覧している。陰部清拭の方法や準備に関して職員から意見を上げて、改善にもつながりつつある。個別面談の機会も持たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が年間目標を設定し半年に1度面談を行い達成状況や勤務状況の確認を行い働きやすい職場環境に努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	20代から60代の職員が働いており、男女の区別なく雇用 面接で、介護の関わり方、考え方、向上心等を考慮して採用している。個人目標を立ててもらい目標に向けて働けるよう、アドバイスや研修への参加を促進している	16名の内男女比は半々に近く、年齢層の幅も広い。レクや壁面の飾りつけなど、得意な職員などお互いに協力しながら取り組んでいる。休憩場所や時間の確保もなされており、外部研修の案内や勤務による参加も出来る。法人内での研修や勉強会も積極的にレベルアップに努めている。	

H29自己・外部評価表(ポート賀茂)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	公民館で行われた人権学習に参加、人権にかかわる虐待等の外部研修を受講、人権啓発活動のビデオを見て勉強している	直近であった事案に関して、市とも相談し、改めて職員全員で話し合っしてレポートも提出した。市が主催した「人権同和合同研修会」にも参加しており、内部での伝達も行った。毎年計画的に研修実施もしており、事業所全体で取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の目標を設定し、個々の能力に応じ、互いに確認出来るようにチェック表を作成している。必要と思われる外部研修の受講や法人での研修を積極的に行い、向上を図っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設のポート野芥の計画作成担当者に相互訪問などを行い。お互いに質の向上について相談を行っている。グループホームのネットワークに参加し意見交換や交流の場となっている。他事業所のグループホームの運営推進会議に職員が参加している		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「本人の思い」を確認するために、24時間暮らしの情報シートを家族に記入していただいている。施設にはいっても、以前の暮らしのリズムで生活出来るように、入居前に訪問調査、情報収集を行いご本人の要望に対応できるよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、可能な方はご本人にも見学に来ていただき事前に楽しみや要望を聞きよりよい「本人の思い」をサービスに繋がるよう取り組んでいる。契約前のオリエンテーションで、ご家族とのコミュニケーションをとり関係作りに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いを根拠にし、家族と施設がチームになり、入居者の未来が幸せな事を考え、今必要と思われるサービスを提案していている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らす」という意識の中で、本人の役割を持ち、得意な事や楽しみを、教え合ったり励ましあったりしながら、生活を共にし信頼関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを根拠に、ご家族との気持ちに寄り添い意向を聞きながら、ご本人を中心としたチームとして良い関係が築けるように心がけている		

H29自己・外部評価表(ポート賀茂)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思いを叶えられるように夢実現として、馴染み場所や、行ってみたいところへ訪問出来るようにしている。他の入居者のご家族との交流や、馴染みの美容室に行かれたり、かかりつけ医の受診では、待合室で近所の方と近況報告をされている	家族の面会は多く、殆どの方が定期的に面会に来ている。家族以外でも近所の方や同級生などが見える。行きたいという要望を叶え、デパートに行ったり、うどんを食べに行ったりと個別の支援もしている。家族の協力も得ながら一時帰宅や外泊にも取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が会話できるよう職員が介入また、編み物や洗濯物たたみ等ができる方は、一緒に職員としながら支え合える環境作りをしている		
24		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族へ連絡をして様子を聞くなどしている		
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、24時間暮らしの情報シートを使い、ご家族へアンケート調査を行っており、その情報をもとに今までの暮らしと変わりがないように努めている	入居時に嗜好調査と共に24時間の暮らしの情報を記入してもらったが、その後は実際の生活の中で、担当職員からの意見をもとに随時刷新もしている。アセスメントは介護更新時に見直す。法人で使用を推進し勉強会も開いている24時間シートには意向・好み、自分で出来る事、お手伝いする事、留意点などの項目があり、やりたい事やケアの課題の把握にもつながっている。特別な意向は夢実現プランとして実践にも取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の当たり前を知るために「24時間暮らしの情報シート」と「嗜好調査」で情報を集め、それを日々の暮らしの中に取り入れ生活を送れるようにしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりが個々のペースで生活できるように支援している また、入居者の表情や言動を注意し現状の把握に努めるようにしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や申し送り等で出た意見を検討しそれをもとに、24時間シートに反映、更新を行い現状にあったケアができるようにしている	入居者ごとの担当職員を決め、カンファレンスの際の情報を上げたり、24時間シートの修正なども行っている。毎月のモニタリング、プランの原案まで担当者が関わり、ケアマネが監修する。プラン見直しは随時～半年で行い、その際に担当者会議も開き、家族にも基本的には参加してもらう。更新時には全体で回覧しプランを確認し、ミニカンファでも随時取り上げることで職員間の共有につなげている。	プラン見直し時に医師からも意見はもらっているが、担当者会議録にもいつ、誰にどのような内容で聞いたかを残すことで、チームケアに活かしてはどうだろうか。

H29自己・外部評価表(ポート賀茂)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に記入 気づきがあれば申し送りノートに記入し職員同士で話し合い情報を共有している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調や状況に応じて食事の形態を変更している。好きな物を提供しており、その時に合った食べる楽しみの提供を行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお店でコーヒーやランチに出掛けたり、子供会の行事や公民館の高齢者体操に参加また、日本舞踊の見学を行い楽しむ機会を支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続でご家族と受診をされる方 ご家族の希望により提携の訪問診療、訪問歯科を契約 日常の様子や体調を提携のクリニックへ報告し連携を図っている	元々のかかりつけ医を継続することが出来るため、入居者それぞれが個別の病院を使っている。通院介助は基本は家族だが、職員が同行することも多く、情報を共有している。家族のみの通院介助時も医師から直接書面で報告をもらう事で齟齬がないようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携のクリニックの看護師や訪問看護師と電話やFAXで相談や助言をいただいている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、情報提供を行い医療機関と情報を共有している入院中の本人の不安を少しでも軽減できるように、スタッフ、管理者がお見舞い行くようにしている状況を見ながら、ドクター・ソーシャルワーカーと退院を含め今後の方向性について、話し合っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期のあり方について説明と提案をしている。今後の方針としてご本人にとって最適な方法をご家族と一緒に考え、主治医と連携を密にとっていく	契約時に看取り指針の説明をし、重度化の際には改めて医師との相談の上で同意書を頂いている。常時医療処置が必要な場合は難しいが、最期まで出来る限りの支援を行う方針で現在も対応を相談している。かかりつけ医もバラバラなため、説明の上で入院や、系列多施設への紹介なども柔軟にしている。	今後の対応に備え、ターミナルケアについても定期的な勉強会や職員間での話し合いの機会をもつことを検討している。実現に期待したい。

H29自己・外部評価表(ポート賀茂)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しており職員の目に付くところに張り出し、直ぐに対応できるように周知徹底をしている AEDの使用の訓練を行っている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し総合防災訓練を日中、夜間想定で年2回行う 消防職員立ち会いのもと通報装置の取扱いや水消火器訓練を実施 また定期的に防災委員会を開催している 災害時の備蓄品を備えている	年2回の訓練の内1回は、運営推進会議と同日に開催し、地域の方にも訓練に参加してもらっている。消防の立会いや、家族の参加もあり、情報を共有している。所内で防災委員会を組織し、訓練の前月に開催する。備蓄物は現在法人主導で準備中である。地域の防災訓練もあり、職員が参加した。地域との協力体制に関しても徐々に話を進めている。	
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを尊重し、さりげない声かけ、言葉かけをしプライドを傷つけないように心がけている プライバシーの確保に注意し、記録などの個人情報の取り扱いの徹底に努めている 家族に日常の状況報告の際は、別室にて行う	入居者に恥ずかしい思いをさせないように、排泄介助の声掛けだけでなく、排せつ物の処理に関しても見られないような配慮をしており、居室にものれんをかけて中が見られないように気を付けている。お便りや掲示などの写真利用に関しても入居時に説明し同意を得たものだけに留めている。接遇に関しても法人で力を入れて入職時や現任者向けの研修を企画している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に対して職員が聴き、日常の会話からできることや、やりたいことを自己決定できるように支援を行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床・朝食など入居者の状態に合わせて声かけ、しっかり覚醒してから食事を提供している 一人ひとりのペースに合わせたケアを行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際は、声かけにてご本人に選んでいただく、整容に関しては髭剃りや化粧などを支援し、身だしなみに気をつけ、その人らしさが保てるようにしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については、業者から納入している。入居者と職員と一緒に盛りつけや食器洗い、テーブル拭きなど一人ひとり出来ることを手伝っていただいている 食べたい物があるときは、外出支援として、食事に出かけたり、ご家族が持参されたりと食の楽しみを提供出来るよう心がけている	思い思いの時間でとってもらうようにしており、席もそれぞれで自分のペースで楽しみ、ランチョンマットに陶器の食器で食事している。3食とも調理済み食材の配達があり、ご飯のみ炊飯している。全国の郷土食や赤飯の日などもありバラエティに富んでいる。個別外食に力をいれており、多い方では月2、3回行くこともある。誕生会など行事の際は鍋料理など調理レク的にも一緒にしている。	

H29自己・外部評価表(ポート賀茂)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録に残し、一日のトータルが解るようにしている 病状等により水分制限のある方は職員間で情報を共有し支援をしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医による口腔ケア講習を全職員受講し、入居者一人ひとり毎食後ご自身で歯磨きを行った後、職員が口腔内を確認し磨き残しがないようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者を定時に誘導するのではなく、本人の排泄パターンに合わせて声かけを行い、失敗や失禁が少なくなるよう支援をしている	1日1枚で全員分を24時間管理するチェック表があり、バイタルや水分摂取量などと共に毎日記録している。ユニットケアにより、個別のタイミングでトイレ介助をしており、ケアの変更や、パットの変更などは気づいた職員が随時、申し送りやミニカンファなどで提言し、改善につなげている。介助時も羞恥心に配慮した、言葉かけが出来るよう気を付けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘改善のための運動、水分量の確保、便通を良くする食事など工夫している 入浴時やベッド上で腹部のマッサージを行うなどして便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日程は決めてはいるが、入居者に伺い決定していただいている。夜間以外はお好きな時間に入っていただけるよう支援している。毎回、お湯を入れ替え、湯温や時間は入居者の希望に添えるようにしている。	三方介助が出来る広めの浴室で、基本的には一人週2回程度、ある程度曜日も決めて入浴している。拒まれる方にも無理強いせず、別の日に変えたりして柔軟に対応する。時間帯の希望はある程度伺い、夕方でも行う。健康状態にも配慮しながら、入浴時間も出来る限りの希望に応えている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24Hシートを活用し、自宅と同じような環境作り、生活習慣の持続が出来るよう心がけている 日中の活動状況に合わせ休息できる時間を支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局と連携を取り、薬の一包化や錠剤が服用できない方は粉末にしている 薬の効能や副作用の注意点、薬の変更など職員間で共有し確認を行っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気をみて庭の畑の水やりや神社への散歩など行っている		

H29自己・外部評価表(ポート賀茂)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話から入居者の思いをくみ取り、夢実現という形で一月に一度は買い物へ出かけたり食事やドライブに出かけている	「夢実現プラン」による個別対応に力を入れており、デパートに電車で買い物に行ったり、うどんや軽食など食べたい物を食べに行く支援をしている。散歩でスーパーまで買い物に行く方もいる。ユニット全体よりは少人数での外出が多く、意欲低下の見える方には無理強いせず中庭に出てもらったりで外気に触れる機会を作っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望があればお金を所持することが出来る。、買い物や外食の際、所持金より精算していただけるよう支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時の契約の際、ご家族との連絡の件を話し合い、入居者が家族とお話したいときは、電話をかけることが出来るように支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルの配置、リビングでくつろげる空間作りを行っている。季節の花を飾ったり、オルゴールや昔の名曲の音楽を流す際は音量に配慮している	事務室と中庭を中心に左右対称にユニットが配置されている。L字型のリビングの中心にカウンターキッチンがあり、テレビスペースとは分けているため、集中して食事などでもできる。2人掛けのテーブルが複数あることで、個別に席に着いたり、つなげて大人数で使うことが出来る。ホールは吹き抜けになっており、中庭もあるため日当たりが良く明るい。食事の席も決めずに自由に座れるようにしており、自分の時間を落ち着いて過ごしてもらっている。	床暖房やエアコン、ガスファンヒーターなど、様々な空調管理がされているが、湿度計も気を付けて管理することで、湿度管理がなされることにも期待したい。
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を食堂、リビングと分けており、好きな空間で気の合った入居者同士話が出るよう椅子やソファを配置している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みのある物を持って来ていただきできる限り自宅に近い環境となるよう、ご家族に協力していただいている 暮らしやすいように入居者、ご家族と相談し部屋配置を考えている	規定より広めの造りになっており、電動介護ベッドとクローゼットが備え付けられている。テレビのほか、甘いものが好きな方が冷蔵を持ち込んだりもしている。掃き出し窓からの採光も良く、入り口も大きく開く引き戸で出入りしやすい。のれんをつけることで開放時もプライバシーが確保されるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を中庭で干せるように設置している。入居者が洗濯物を干したり、乾いたのを確認でき取り込めるように支援している 全面に手すりを設置しバリアフリーとなっている		